

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒 207-0005
東京都東大和市高木 3-315-1-2-2
<http://www.yumuyu.com/>
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up , TOHOKU!

2 0 2 0 年（令和 2 年）7 月 16 日 木曜日

無料

第 98 号

毎月発行

発行 2020 年（令和 2 年）7 月 16 日 木曜日

【当新聞発行責任者
兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、66 歳、新人の歴史ドキュメンタリー作家。現在、日本刀の真のルーツを発掘した映像【鬼がつくった日本刀】を上映計画中だが、新型コロナウイルスによる延期を余儀なくされている。趣味は古代史・縄文文化研究。埋もれた歴史を発掘することと東北から日本を変えることを標榜。



新型コロナ禍を人口大逆転の契機にしよう！ そして1300年ものあいだ流出を続け いまでも減り続ける東北の人口を取り戻せ！

新型コロナ禍も視点を
変えればチャンスに

唐突な切り出しで驚かせるようだが、日本も世界も新型コロナウイルス感染増加で大騒ぎのなか、発想を転換するとまったく別の見方が可能になると思うのである。

どういうことかといえ、このピンチを、東北の人口増加に活かすことを目指そうということである。

東北は千三百年という途方もなく長い時間をかけて「人口」という何物にも代えがたい資産を、時の権力に奪われ続けてきた。

人口を失えば、地域の活力と潜在力は大きく減退する。

それを歴史に学び、何とかしようと思いついていけば、新型コロナ禍はチャンスにも見えようというものである。

いま、人口が減り続ける東北にとって、一挙に人口大逆転できる可能性が見えているのに、それを見よう

としない東北の政治家たちがもしいるとしたら、はなはだ近視眼的な視点しか持ち合わせていないと決めつけても許されるだろう。

長期間の人口流出は未来を失うことと同義

当新聞はこれまで何度も訴えてきたが、人口が減少し続ける地域に未来はない。東北の高齢化が加速的に進み、若い女性がどんどん東北から流出していけば、過疎など通り越して、無人地域を目指すことにつながるのだ。

そのことを近年の人口減少だけを見ずに、もっと長い時間軸で見たら、小手先の対応ではなく、根本的な対応をひねり出す勇氣も生まれてくるのではないか。

いづれにしても、東北の人口流出はどこかで止め、さらに、なるべく早く流れを逆回転させて、人口増大に大きくシフトしていかなければならないのはだれが見ても当然のことなのであ

る。この東北をあきらめ、見捨てない限りにおいてではあるが。

筆者は六十六歳の高齢者ではあるが、けっして自分の生きている間さえよければ東北の次世代、次々世代がどうなろうと構わないという考えはけっして採らない。

そうしたことに加担したり、この問題を見て見ぬふりをしたならば、きつと臨終の床で大後悔をすることだろう。

それだからこそ、この記事をつたわごとと受け取らず、かつ絵空事物語と理解しないで欲しいのである。

東北の長い人口流出の歴史を思い起こせ

まずは縄文時代後期

東北の人口流出が始まったのは、数千年単位で考えれば、縄文時代後期からである。

その時代に列島にミニ寒冷化が起きて、かつては列

島の人口の過半が東日本、なかでも東北にも多くの人が存在したが、そのミニ寒冷化で、人が東北から集団で南下していった。

従来の作物が採れなければ、採れる場所を目指すのは当然である。生きていくための当然の対応である。

とはいえ、だれに命令されたわけでも、強制されたわけでもない。

結果、列島の人口分布は大きく変化した。

東日本や東北に過半以上あった人口が減り、西日本の人口が過半となった。

ミニ寒冷化がなければ、人口分布は変わっていたのだ。

朝廷の強制移住政策による人口流出

その後の東北の主な人口流出は、奈良時代以降平安時代にかけてのことである。それは、大和朝廷との長い戦争、というより朝廷からの一方的な侵略によって蹂躪された東北から、反乱分子とされた人々が全国に強制的に移住を強いられたのがはじまりであった。

これは、いまから千三百年前の八世紀に始まり、平安時代中期まで、二百年以上続いた。

最初朝廷への反抗分子だったが、その後、移住を強いられた人の属性が変わった。

すなわち、往時、列島の製鉄最先端地であった東北



集団就職 上野駅



出稼ぎ

完全移住じゃなく多拠点居住ー主なメリット・デメリット例

【多拠点居住のメリット】

- ① 人間関係に強く縛られず、自由で、かつ多層的になる、
- ② やっぱり都会生活の良さはあり、それも楽しめる
- ③ 移動する時はほとんど手ぶらで済む
- ④ どっちの「良いとこ取り」もできて、二倍楽しめる

【多拠点生活のデメリット】

- ① 交通費などの移動コストが高い
- ② 二重拠点のための初期コストもかかる

の製鉄に関係した人間が対象となったのだ。そしてこの時代に、東北のいたるところに存在した東北の製鉄拠点の製鉄技術が製鉄技術者とともに流出した。

少し後の日本刀の刀工たちも同じ道を辿った。古代東北は日本刀の製造拠点、刀剣王国だったのだ。そのまま、東北の製鉄が隆盛をきわめていたら、また日本刀の刀工たちがそのまま東北で作刀を続けていたら歴史は変わっていたであろうというほど、「略奪」と強制移住は大規模なものであったのだ。

しかし、このことはすっ

かり歴史の下層に埋もれてしまった。もうだれもそのことを知らない。

江戸の大都市化と東北の人口流出

次の人口流出は江戸時代。

徳川家康が江戸に来るまでは、江戸はそんなに大きなまちではなかった。湿地だらけの住みにくい土地だった。

しかし、家康は大規模な灌漑を行い、居住エリアと耕作地を増やして、江戸を大きくしていった。

そこに、冷害などで食えなくなった東北の農民が大量になだれ込んできたに違いない。

いわば、江戸時代の「東北からの戻ることのない出稼ぎ」であった。

その後、人口が増えて、当時の世界の最大人口を抱えた大都市の江戸は、何度も大火を経験した。大火で焼失した江戸のまちの再建のため、新たなまちづくりのためのたくさん人間が必要となった。そこに東北からさらに大量の人間がなだれ込む。再び、東北の食い詰めた農民が大量に逃亡してきたであろう。寒冷地には適さない米作りに縛られた東北の辿る道であった。

奥羽列藩同盟敗戦による人口流出

それから、明治維新の前に起きた幕府と薩長勢力との争いで、東北は幕府側について敗戦した。いわゆる奥羽越列藩同盟の敗戦である。

この敗戦により、新政府は東北各藩に厳しい制裁を科した。

それに耐えかねて、北海道に新天地を求めた人々がいた。

他にも東北を脱出したたくさんの方がいたであろう。それでまた、東北は疲弊し、新政府の嫌がらせに逢い、人口も減少した。

昭和の出稼ぎと集団就職

時代はずっと下って、昭和の高度成長期前後のこと。

高度成長は大都市圏だけのことであり、一方の東北は相変わらずの停滞地域であった。

この格差が、東北から大都市圏への労働力流出を引き起こした。

大都市圏には仕事があるが、東北には、特に農閑期は仕事がない。

結果、出稼ぎという短期移住労働力が、一年の半分東北から流出した。

また「金の卵」といわれた東北の若い労働者の卵たちは「集団就職」という大規模流出列車に乗せられて東北を出て行った。

これは表面上は強制された移動ではなかったが、現代の強制移住という側面がまったくないとはいえないのではないか。

他の地域とは異なる

昭和の出稼ぎと集団就職は、東北に限らず他の地方でも同じだったが、一連の流れをみるとけっして同じとはいえない。

この千三百年の間、一度として東北の人口が他地域に比べて増加したという史実を筆者は知らない。

それでも何とか東北は人口を維持してきたが、近年はまた流出が加速している。

東日本大震災

そして、九年前の東日本大震災である。

福島第一原発による人口流出だけではない。沿岸被災地はまだ流出が

止まらない。

このままでは、インフラ復旧しても、人がいない被災地が遅かれ早かれ出現するのではないか。

いま、大都市圏から地方への移動が始まった

こうした歴史を抱えた東北にいまチャンスが到来している。

今年はじめから始まった新型コロナウイルス感染防止のための自粛生活で、大都市圏に住む理由が希薄となり、かつウィルス感染者が格段に少ない地方が見直されてきている。

しかも、これまでは地方には仕事がないという理由で、地方への回帰をあきらめていたが、「テレワーク」で、大都市圏に住まなくとも、どこでも仕事ができるようになり始めている。

さらに、大都市圏の密集した環境より、地方の密ではない、ゆったりとした空間、なかでも格段に広い住宅も見直されている。

これは、これまでの大都市集中一方の流れが変わるとの予感を抱かせる。

人口増大は二段階、三段階で取り組む

では、人口増大というので、いきなり移住をすすめるという方策が容易に受け入れられるだろうか。はっきり言えば無理である。いままでの経過で分かる。ではどうしたらよいか。

移住の前に多拠点生活拠

点としての東北をアピールすることである。

移住でいきなりハードルを上げ敬遠されるのではなく、まずは地方の、ここでは東北の良さを味わってもらうことから始めるのだ。

左に「多拠点居住ー主なメリット・デメリット例」を挙げたが、東北のメリットのみを堪能して、デメリットを縮小する方策を打ち立てればよいのである。

そうしたことが実感できる拠点づくりを東北全体で作り、大都市圏の若者たちに強烈にアピールすればよいのだ。

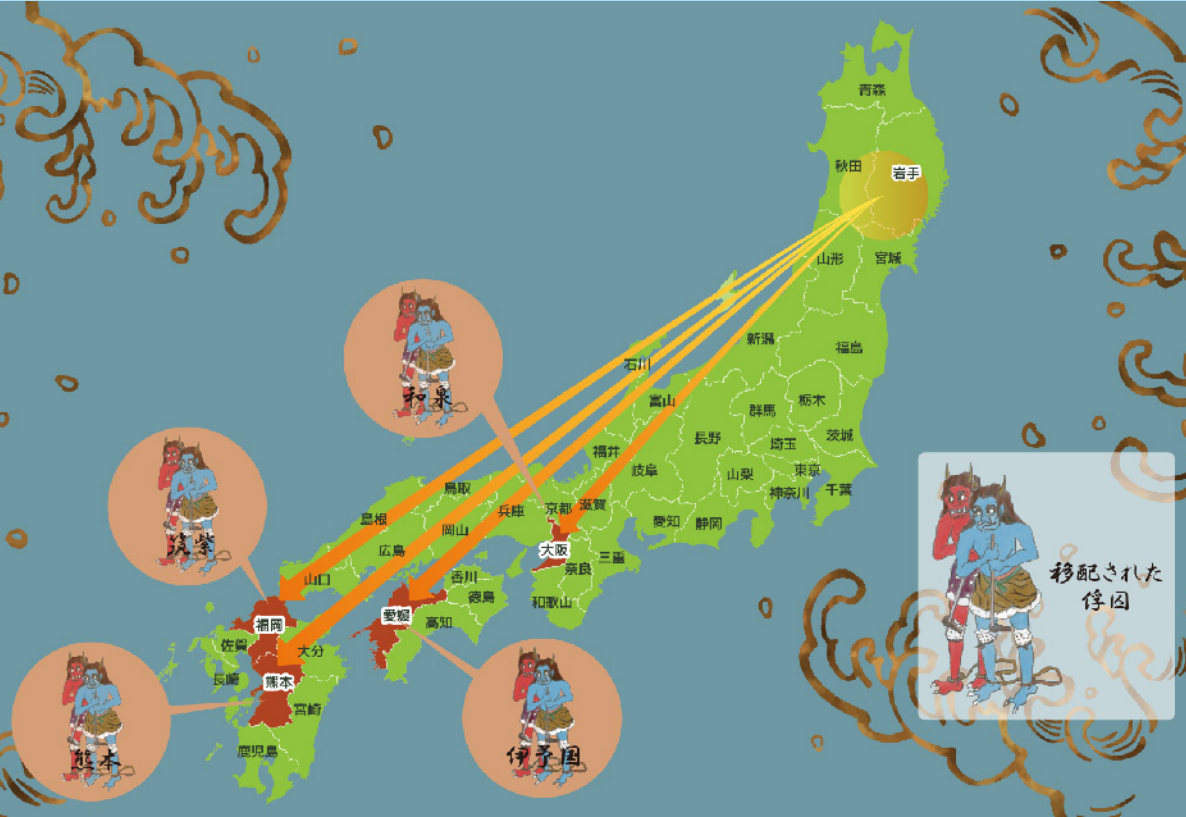
いまは絶好の機会である。タイミングを失ってはならない。他の地方もすでに動き出している。

ここで東北が動かないというのは、百年どころか数百年に一度のチャンスを逃すということと同じだ。

何とか、いち早く、東北の各自自体の首長たちが、みなが驚くような政策を、協同で打ち出して欲しいものだ。

平成 30 年の東北 6 県の出生者と死亡者数（総務省統計局資料ー筆者抜粋）

		出生数	死亡数
東北 6 県	青森	7,803	17,936
	岩手	7,615	17,390
	宮城	16,211	24,520
	秋田	5,040	15,434
	山形	6,973	15,320
	福島	12,495	24,747



埋もれた歴史を発掘するドキュメンタリー
【鬼がつくった日本刀】『移配』

「鬼がつくった日本刀」約千三百年前、東北の地から全国に連れ去られた多くの奥州刀鍛冶たちがいた。しかし「鬼」と蔑まれ、苛酷な労働を強いられながらも、数々の名刀をつくり続けた。だが古代から中世にかけての日本刀の名工といわれた刀工のほとんどが奥州刀鍛冶の流れを汲んでいたにもかかわらず、その後すっかり忘れ去られてしまった。



第71回

水産業再興のための 料理レシピ紹介

【タイのカルパッチョ】



郷土料理愛好家
松本由美子氏

—材料— 鯛の刺身 200g、飾り花、水菜 少々、醤油ポン酢 大2、エキストラバージンオイル 大2、レモン汁 少々、塩 少々、黒コショウ 少々

—作り方—

① 鯛の刺身は、スライスしてお皿にのせ冷やしておく。② 醤油ポン酢、エキストラバージンオイル、塩、コショウを混ぜ合わせる。③ お皿に盛り付けた鯛の刺身に調味料を振りかけ、黒コショウと食べれる飾り花を真ん中を中心にのせます。

「鯛の刺身がしっかりしてました。そして、パンにも合いますね。」(松本談)

宅飲みでガマン、東北地酒！飲みたい、呑みたい・・・！

【依然として第 43 回三陸酒海鮮会代替日程未定のまま】

延期を余儀なくされた 3 月 14 日開催のはずだった第 43 回目の三陸酒海鮮会から、はや 4 か月も経ちましたが、依然として代替日程が未定のまま推移しております。美味しい東北地酒への恋しさが狂おしいほどに募っておりますが、みなさましばし我慢ですぞ！以前の写真画像のみで何とか耐えてください。また、可能ならば宅飲みでガマンしてください。再びお会いできる日を楽しみに！





写真でお伝えする 東北の風景
新型コロナウイルス禍自粛症候群
「対応薬②」



写真撮影
尾崎匠



「複合災害」に どう対応するか

「百年に一度」が毎年？

「百年に一度の大雨」というフレーズをよく耳にするようになった。「百年に一度」をいうフレーズを百年に一度どころか、毎年聞いているのが実情である。もちろん、日本中のあらゆる地域が毎年百年に一度の大雨に襲われているわけではなく、あちこちの地域が代わる代わる百年に一度規模の大雨に見舞われているために、そのフレーズをしよつちゅう耳にすることになっているわけであるが、それにしてもあまりに聞きすぎてしまつて「百年に一度」のフレーズが耳慣れてしまつてはいないだろうか。それが油断につながつてしまつては危険である。

それにしても、である。

近年、あまりにも自然災害とりわけ豪雨による災害が増えてはいないだろうか。「顕著な災害を起こした自然現象」については、気象庁

が名称を定めている。「防災関係機関等による災害発生後の応急・復旧活動の円滑化を図るとともに、当該災害における経験や貴重な教訓を後世に伝承することを期待する」ための措置とされている。すなわち、大きな自然災害については、気象庁が特にネーミングを行っているわけである。

この気象庁がネーミングした風水害について見てみると、何と言つても死者四六九七名、行方不明者四〇一名という空前の被害を出した一九五九年の伊勢湾台風が目を引く。その前年の一九五八年にも死者八八八名、行方不明者三八一名という被害の狩野川台風がある。東北では、北上川の氾濫によつて岩手県一関市を中心に死者・行方不明者七〇〇名超の犠牲者を出した一九四八年のアイオン台風とその前年にやはり同様に一関市などで大きな被害が出たカスリーン

台風がある。その後、治水事業の進展などもあつて、数百人、数千人といった規模の犠牲者を出す風水害はなくなった。一九八一年から二〇〇〇年の二〇年で気象庁がネーミングした風水害の数はわずかに三つである。ところが、二〇〇一年から昨年までの一九年で見てみると、その数は既に一三にも上る。明らかに近年大きな被害をもたらす風水害の数が増えているのである。

気象庁は定期的に「気候変動監視レポート」を出しているが、昨年公表した「気候変動監視レポート二〇一八」を見ると、日本の年平均気温は年々上昇しており、一方で大雨の目安となる日降水量百ミリ以上の雨量となる年間日数も年々増加している様子が窺える。まさに「百年に一度の大雨」が増えているという実感とも合致している。

九州を襲った今回の豪雨災害

七月三日から熊本県など九州各地に大きな被害をもたらした豪雨は、「令和二年七月豪雨」とネーミングされた。過去二〇年で一四番目のネーミングされた風水害である。七月一二日現在で、熊本県を中心に六八名が亡くなり、一名が心肺停止状態、一二名がいまだ行方不明である。

昨年、の台風一九号の際にも頻発した、河川の本流

と支流がぶつかる地点で越水、あるいは堤防が決壊する「バックウォーター現象」が今回も各地で発生したようで、中でも氾濫した球磨川沿いにある特別養護老人ホームで一四名の入所者が亡くなった。高齢者施設の入所者に大きな被害が出たという点では、岩手県岩泉町のグループホームで入所者九名が亡くなった二〇一六年の台風一〇号による豪雨災害を想起させる。

この時の災害を受けて、国は浸水想定地域、土砂災害警戒区域内にある福祉施設に「避難確保計画」の作成と訓練を義務付けた。今回の被害を出した特別養護老人ホームでどのような対応がされていたかは不明だが、今回は熊本県と鹿児島県に「大雨特別警報」が出されたのが四日の午前四時五〇分であり、施設では夜勤帯で職員数も限られ、入所者の避難が間に合わなかつた可能性がある。

避難確保計画は、様々な想定の下で機能するような実効あるものである必要がある。避難訓練も同様である。深夜や早朝の時間帯で職員だけで全ての入所者を避難させるのはほとんど不可能である。ではどうするか。

まずは地域住民との連携である。日頃から地域住民との良好な関係を築き、避難訓練も地域住民と合同で行う。いざと言う時には入所者の避難に協力もしてもらう。そのような体制をつくっておくことが必要である。

また、そもそも、浸水想定地域や土砂災害警戒区域に福祉施設を建設しない、という判断も必要である。高齢者や障害者などは「災害弱者」であることが多く、いざ避難するとなつた場合に、人手も時間も掛かる。すぐには実現しないかもしれないが、施設の改築などのタイミングで、ハザードマップ等を確認して、より安全な場所に移転することが求められる。

避難所での感染対策

避難したら終わり、ではない。避難した先での対応も必要である。避難所での生活がある。この新型コロナウイルスによる感染が収まっていな状況下での避難所の設営については、通常とはまた異なる対応が求められる。つまり、避難所での感染拡大を防ぐ対応である。これは高齢者だけでなく、全ての避難者に対して求められる。

この点については、内閣府から「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所運営のポイント」が出されており、それに基づいて各自自治体で避難所における感染症への対応策が講じられている。また、関連する学会でつくる「防災学術連携体」も、「感染症と自然災害の複合災害に備えて下さい」とする緊急メッセージ

を出している。緊急メッセージでは、「感染リスクを考慮した避難が必要」として、避難所の数を増やし、学校では体育館だけでなく教室も使い、避難者間のスペースを確保し、ついたてを設置する、消毒などの備品を整備するなどの対応が必要」とし、感染者や感染の疑いのある人がいる場合には「建物を分けるなど隔離のための対策も必要」と指摘している。また、避難場所はずしも公的避難所である必要はなく、より安全な親戚や知人の家、その地区の頑丈なビルの上層階を避難場所とする

る、自宅での居住が継続できる場合は自宅避難とするなどの対応も求めている。ただ、この「避難所の数を増やす」ということについては、避難所となりうるような学校や公的施設などには既に大方避難所となつているのであることから、普通に考えると困難を伴いそうである。そこで考えるべきなのは、他でもない新型コロナウイルスによる感染拡大の状況下で進めた、ホテルや旅館の活用である。感染拡大で医療機関の病床不足が懸念されたことから、一部の自治体において、軽症者と無症状者について、宿泊療養とするためにホテルや旅館を確保した事例があった。国も災害時の避難所としてこうしたホテルや旅館の活用に向けた準備を進めるよう、各都道府県に事務連絡を出しており、こうした対応が進んでいけば、避難所の数を増やすことができる。

ホテルや旅館の避難所としての活用のメリットは、単に数を増やすことだけではない。ホテルや旅館は基本的に個室である。避難所でも問題になる避難者のプライバシーの確保という点でも都合であり、感染者と感染疑い者の隔離とい

う点でもメリットがある。新型コロナウイルス感染症が収束しない状況であるが、自然災害はどのような事情お構いなしに襲い来る。風水害だけでなく、地震や火山噴火などがこのような状況下で発生しないと誰が断言できるだろうか。今回は新型コロナウイルス感染症と大雨被害の「複合災害」であったが、今後また別の「複合災害」が起きる可能性もある。早急にそれを見越した対策を講じておきたい。

Face book
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo

大友浩平
(おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagmas/

日本

の年平均気温偏差

トレンド=1.21 (℃/100年)

気象庁

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

1981-2010年平均気温偏差

年

日降水量

トレンド=0.29 (日/100年)

51地点平均

日降水量180mm以上の年間日数

年

1地点あたりの日数

日

1900

1910



子ギツネ



カモシカの親子



七夕飾り



ミズチドリ



ガクアジサイ

いつになったら新型コロナ禍の軟禁状態から解放されるのだろうか。精神的にも大分疲れてきている。最近、たまに外出らしい外出をすることも疲れる。運動不足もあるし、自宅に閉じこもり状態のために

たくさんの人ごみに入ると気疲れもするが、それだけではない。感染を異常に恐れる人と遭遇してトラブルに巻き込まれないかに神経を使うからだろう。それなら、東京圏から脱出して自然のなかで過ご

したいと思うが、感染者が再び増加し始めた東京圏は他県から忌み嫌われているので、旅行もむずかしい。せめて遠野の動物や花々を見て心鎮めようと思う。



ホタルブクロ



栗の花



オニノヤガラ

「東北人の口の永遠の友」の事

もはや日本が世界に誇る（この言い回しも使い古され過ぎて恥ずかしくもあるが）漫画の古典の一つに、いつの間にかなくなってしまったであろう、松本零士の名作『銀河鉄道999』（少年誌連載一九七七～八一年）は今でも私の最も愛読する作品の一つである。松本氏は「よく寝る男は大物になる」とか、「銃は黒色火薬を使っていた西部開拓時代のものに限り」とか、しばしば格言めいた、趣味的なこだわりを感じさせるセリフが多く、それが前時代的であれ、カッコいい大人への憧れの源泉ともいえる魅力の一つであった。ところで、松本氏ならず



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始めると東北好きである。

とも、戦後大人となった漫画黄金期の立役者には、食べ物や、食べるシーンを非常に美味そうに描く作家が多い。当然、戦中戦後の貧しさから、憧れだった食べ物徐徐に手の届くものになってゆく時代までの、食への感情の起伏を知り尽くす故の事であろう。中でも本作といえはコレ！と読者にイメージさせるほど、作品と切り離せない食べ物がある。それが「ラーメンライス」である。

大宇宙を駆け巡り、多数の異星人・生物と渡り合う作品にしては意外な取り合わせのようだが、実のところ物語の中でも宇宙は機械化人が幅を利かせ、ラーメンは絶滅が危ぶまれている。ラーメンに憧れながら、食べた事がない主人公の少年・鉄郎はある惑星で初めてラーメンライスを食べ、涙しながらこう言うのだ。

「こ、これが・・・人間の口の永遠の友と謳われた、ラーメンの味！」

実は、私の郷・山形県は全国平均の三倍以上ラーメンに支出するラーメン好き日本一の県らしい（N-T-Tタウンページデータベース他より）。子供の頃は当たり前過ぎて特段好きな食べ物と意識する事もなかったが、成人し上京などすると年々あの「人間の口の永遠

の友」というセリフが井の一杯を前にする度に身に沁みるようになったのである。そこで今回は、山形県のみならず福島・岩手・秋田なども軒並みランクインするというまさにラーメン大国・東北におけるラーメン、ひいては「麵」文化について思いを馳せてみたい。

＊

『都道府県別統計とランキングで見る県民性』によると、二〇一六年度のラーメン外食費用ランキングには

かの札幌ラーメンを擁する北海道、豚骨ラーメンの世界への勇躍に情熱を燃やす九州各県も十位にランクインせず、全国のご当地ラーメンが群雄割拠するはずの東京に至ってはむしろ最下位の方に近い、という。これは東北以外の地域において、ラーメンが食卓上多くの選択肢の一つに過ぎない事を意味しているのだろう。

考えてみると冬の労働者の激務を考慮した塩分と脂の豊富な北海道のラーメンも、あくまで「酒の締め」としての軽食という雰囲気

が強い九州のラーメンも、決して日常的に毎日普通に通い誰でも食べるという感じではない。よく、「毎日でも食べられる」と形容されるラーメンとは、鶏ガラや煮干から出汁を取った、チャーシュー数枚とメンマ、ネギのみといったあつさりした醤油・塩味のもので、山形県における酒田や米沢、また福島県における喜多方、

そして白河のラーメンがこれに該当する。もともと明治末期に浅草『来々軒』を発祥とし、恵比寿ラーメン、荻窪ラーメンなどに派生していった東京ラーメンがルーツと思われるが、福岡県出身の松本零士氏が漫画に描いたのも白濁スープの地元・博多ラーメンではなく、おそらく上京後夢に燃える生活を共にしたであろう、この東京ラーメンであった。

ラーメン消費量全国平均の三倍という驚異的な数字は、いかにラーメンを毎日のように食べているかという証左でもあり、それだけ県民がラーメンを日常的なものへと変化成長させてきたという事なのだろう。

しかしながら、ラーメンという食べ物日本人に馴染みとなったのは前述の通りそう昔の事ではなく、明治以来の支那そば・中華そばとして広まり、戦後即席麵であるチキンラーメンのヒットからラーメンの呼称が定着していったという。

何故、そのような歴史の浅い食べ物か、これほどまでに日常的なものとなったのか。そのヒントは「中華そば」という呼び方にあるのではないかと考える。

そう、「そば」である。実は、外見的にも内容的にも酷似している山形や福島にあつさり系醤油味と、東京ラーメンにはルーツ上の共通点がある。それは、「蕎麦店からの転業」であ

り、山形県の場合は更に、「蕎麦店との兼業」というか、つまり今に至るまで「蕎麦屋のラーメン」なのである。この、日本古来の蕎麦と中国ルーツであるラーメンとの関連の深さ、距離の近さこそが、特に東北においてラーメンを他地域以上に日常的なものにしている秘密ではないだろうか。

蕎麦とは言わずと知れた東・北日本中心に栽培される、瘦せた土地と冷涼な気候に適し飢饉に強い作物。現在「そば」というと長い麵の事のように認識されるが、蕎麦が細長く伸ばし、すすするように食べる形となったのは室町時代以降の事と言われている。特に東北において、決して庶民の主食として万能ではなかったコメに対して、多くの雑穀料理の中でも完成された形と個性を獲得しつつあったと思われる蕎麦という存在。この蕎麦への信頼感こそが、東北におけるその後のラーメンに対する他の追随を許さぬ愛着の強さに結びついていったのではないだろうかと推測される。

では何故本来の地元の麵料理である蕎麦より、ラーメンがより一般的で馴染みなものとして広まったのか。それにもいくつかの要因が考えられるだろう。まずは明治・大正と時代が移っていくに従い、飢饉から救ってくれる食べ物というイメージのあった蕎麦と対する、新たな時代の華やか

な印象を持つ食としての強み。そして既に江戸期以来の伝統を持ち、冒険し難い業種であった蕎麦に対する、未開拓で自由・開放的な外来の文化であった事の強みである。井一杯に完結しながら、その内側に無限の選択肢を投入し開発できる錬金術のような魅力と、それに出会う客側の所謂ワクワク感こそが、ラーメンを広め定着させていった原動力だったのではないだろうか。

さて、蕎麦が登場したところで、他にも東北においてラーメンとともに愛されてきた多彩な麵類をあげてみると、秋田県の稲庭うどんや山形県鶴岡市の麦切り、岩手県盛岡市のじゃじゃ麵といった「うどん勢」、青森県の黒石つゆ焼きそばや秋田県の横手焼きそば、宮城県の石巻やきそば、更に福島県の会津カレー焼きそばといった「焼きそば勢」、また岩手県の「盛岡冷麵」、宮城県の高級素麵である「白石温麵」などが思いつく。特に、岩手県のラーメン消費量が東北の中では低い水準に留まっているのは、じゃじゃ麵や冷麵、蕎麦など他にも日常的に食べられる麵類が豊富だからとも考えられる。しかし、それ

を言ったら山形県にもまさに「そば街道」があり、巨大な下足天や近年仙台でも出店が相次いでいる「冷たい鶏そば」などラーメンに引けを取らない人気を誇りながらのラーメン日本一なのだから、やはり手前味噌ながら山形県のラーメン好きは只事ではないなど感嘆など致すのであった。

しかしながら、ラーメン消費量上位とは決して誇らしい、良い事ばかりとも言えない。大きな問題の一つは、健康である。ラーメンを主食とする際に必ず言及されるのがその過多な塩分、偏った栄養素だ。同じく塩分の濃いつゆを使う蕎麦やうどんと比べても、不健康なイメージは強い。平均寿命全国最下位（最新二〇一五年の厚生労働省発表資料より）の青森県では、漁師などの第一次産業現場の従事者の間に安く手軽なラーメンを外食・即席問わず常食している人が多く、度々話題にされる。ただし当地ではこの他に野菜不足や喫煙、過度の飲酒も問題になっており、必ずしもラーメンが不健康の主要因とは断定できない。

一方の山形県も男女ともに二九位と中の下程度だが、東北の中では高い水準といえる。その要因を考える時、長野県の例を見るとかなり参考になるかも知れない。

信州・長野県は風土的に東北各県と共通した点が多いが、七〇年代半ば以降、平均寿命が上昇し、八〇年代で一桁台、二〇一〇年に一位となつて以降、首位を守っている。元来、塩分を多く摂る事にかけては東北

からのラーメン日本一なのだから、やはり手前味噌ながら山形県のラーメン好きは只事ではないなど感嘆など致すのであった。

しかしながら、ラーメン消費量上位とは決して誇らしい、良い事ばかりとも言えない。大きな問題の一つは、健康である。ラーメンを主食とする際に必ず言及されるのがその過多な塩分、偏った栄養素だ。同じく塩分の濃いつゆを使う蕎麦やうどんと比べても、不健康なイメージは強い。平均寿命全国最下位（最新二〇一五年の厚生労働省発表資料より）の青森県では、漁師などの第一次産業現場の従事者の間に安く手軽なラーメンを外食・即席問わず常食している人が多く、度々話題にされる。ただし当地ではこの他に野菜不足や喫煙、過度の飲酒も問題になっており、必ずしもラーメンが不健康の主要因とは断定できない。

一方の山形県も男女ともに二九位と中の下程度だが、東北の中では高い水準といえる。その要因を考える時、長野県の例を見るとかなり参考になるかも知れない。

信州・長野県は風土的に東北各県と共通した点が多いが、七〇年代半ば以降、平均寿命が上昇し、八〇年代で一桁台、二〇一〇年に一位となつて以降、首位を守っている。元来、塩分を多く摂る事にかけては東北

同様であったが、喫煙率や肥満率が低く、野菜を豊富に摂取する土地柄でもあった事に加え、六十年代から既に減塩運動を開始して「味噌汁は一日一杯」「ラーメン・蕎麦などの汁は半分残す」といった具体的な例をあげて県民に広く実施させた事が、確実に数年後の結果に結びついていったというのである。これは、元来芋煮など野菜を多く摂る事にかけては決して引けを取らない山形県においても、充分追随のチャンスがある事を意味する話だと思ふ。

実は、私は昔からラーメンや蕎麦の汁は美味しいと思えば全部か、それに近い分量飲んでしまう性質である。これは、山形県民の性格と言いつてもいいかも知れないが、単純に「もったいない」という意識もある。「そこにあるのに頂かないのは矛盾ではないか」という訳である。排水溝に捨てると汚れやすいというのもある・・・これは、どうしても汁に浸さないと成り立たないという、「かけ蕎麦式」の宿命ともいえるべきもので、命を取るか好きなものを取るか、最終的には自己判断・管理に委ねられるという事かも知れない。



蕎麦つゆと中華麵の融合・鶏中華は、近年仙台進出も目覚ましい山形名物

昨年、仙台で五年ほど営業した私の地元庄内の酒田ラーメン店支店が閉店し、今年東京・三鷹に出店した。実は酒田ラーメンは東京ラーメンに似ているが故か、過去東京進出に失敗した前例を知っているので懸念しており、加えて出店早々に東京がコロナ禍に見舞われた為心配でもあったが、店を構えた街も良かったのか、概ね盛況のようである。

今の時代、敢えて山形県の一見地味なラーメンが東京へ乗り込んでゆく意味はどこにあるのだろうか。「これが日本一のラーメン好き県人のラーメンだ！」という新たな誇りという味を、今こそ広く知らしめる事だろうか。

「東北人の口の永遠の友」が、いつの間にか本場に「世界人類の口の永遠の友」になっている日が来ないとも限るまい。

歴史ドキュメンタリー『鬼がつくった日本刀』ようやく上映

2020・7・4 東大和市ハミングホール

二度の延期、あきらめかけて、当日は雨降りのなか、三度目でようやく実現した映像上映

ようやく上映実現

新型コロナウイルス禍のなか、七月四日、何とか三度目でようやく上映が実現した。当然ながら入念な感染防止対策を施した上映である。映像完成後、約四か月も待ったことになる。

しかし、もう一か所の上映予定は残念ながら中止と決断した。

他の映像が上映延期ではなく、完全に中止されているケースもあることを考えると、実現できたことを喜ぶべきかもしれない。

まさかの二度上映延期

まさか、まさかの二度の延期だった。最初の延期はある程度仕方がないと受け止めが、それならと約二か月もの時間を空けて延期をするも、またまた不要不急の上映の自粛が解けず、公営の施設のため、施設そのものが休館となり、二回目の延期を余儀なくされた。ポスターもチラシも印刷して準備万端と臨んだが、何もかもが無駄になってしまった。

上映にお誘いした方々にも、結局、二度もお詫びをしなければならなかった。そんななか、雨降りにもかかわらず当日に会場にいられたみなさんには心から感謝申し上げたい。

二作目の映像に高評価

こうした状況下での上映ではあったが、映像鑑賞後

には口々に良い映像だった、印象に残ったとの言葉を頂戴した。まことに制作者冥利に尽きる。

その言葉で、準備や制作時の苦勞が一挙に吹き飛んだ。作って良かったと心から思えた次第である。

作る側は、なかなか客観的な評価を下すのがむずかしい。強い思い入れがあるから粘り強く頑張れるのではあるが、それだけに突き放して見ることはできない。

ましてや、まだ二作目である。到底、客観視など出来るわけがない。今後もただただ精進するしかない。

あらためて東北古代の刀鍛冶を思う

上映前に二度、あらためて通して映像を見た。

上映のための最終確認のつもりだったが、途中から、古代東北刀鍛冶の境遇に同化していったためなのか、身体の内底がどんどん熱くなっていくのを感じた。制作直後はそれほど感じなかったが、完成から約四か月経過して見たのに、この変化はいったい何だろうと不思議に思った。

自分が作った映像ではあるが、いつしか、取り上げた古代の東北刀鍛冶が乗り移ってきたのだろうか。言いようのない怒りと悲しみが何度でもこみあげてきて仕方がなかった。

埋もれさせてはいけない歴史

「鍛冶神像図」に鬼として描かれた古代東北刀鍛冶は、埋もれた歴史テーマとしては申し分ないと考えたから映像を作ったのだが、上映前の視聴で、あらためて、この史実は絶対に埋もれさせてはならないと強く感じた。

多くの人に、広く知らしめていかなければならないと強く思った。

それにしても、往時の大和朝廷は何という酷いことをしたのだろう。

そしてその史実を覆い隠して、彼らを鬼と蔑んだのである。

日本刀には高い精神性が宿る

そうしたひどい仕打ちを受けながらも、かつ故郷から引き離されても、名刀を作り続けた古代東北刀鍛冶は真に敬服に値する存在である。

苛酷な境遇に負けることなく、それを乗り越え、見事な高い精神性を日本刀に宿しているのだ。

いったい、その内的な転換はどのようにしてなされたのであろうか。

今後、二度と、日本刀を武器として扱わないことを誓おう。

日本刀はまた単なる芸術作品でもないし、単なる高級な刀剣でもない。

むき出しの高い精神そのものが形を帯びたものである。そのように受け取るべき存在である。

埋もれた歴史発掘ドキュメンタリー【鬼がつくった日本刀】の上映日程 3度目の延期のお知らせ

東大和市会館ハミングホール 「小ホール」
(〒207-0013 東京都東大和市向原6-1)

西武拝島線「東大和市駅」より徒歩7分

2020年7月4日(土) 上映開始10:00

2020年7月22日(水) 上映開始19:00

* 5月27日の三度目の延期での代替日程

埼玉県 SKIP CITY 彩の国ビジュアルプラザ
映像ホール

(〒333-0844 埼玉県川口市上青木3-12-63) JR 西川口駅よりバス9分

当面の間、上映未定

年内に、宮城県での上映会開催予定

上映時間：約60分

入場料：500円(税込) 全席自由席

DVD — 3月下旬販売開始

3300円(税込) 送料無料

解説本(カラー) — 5月販売予定

問合せ先：株式会社遊無有

mail: y.s.yumuyu@ozzio.jp

だからこそ多くの人の心を打つのだ。

東北各地で上映

単なる宣伝と受け取られ、受けながらも、かつ故郷から引き離されても、名刀を作り続けた古代東北刀鍛冶は真に敬服に値する存在である。

そして古代東北刀鍛冶の辿った道を思い起こしても、これはずいぶん切に願う。

彼らが、現代の東北人の祖先であり、日本刀作りにあたって発揮した高い精神性の持ち主であることを誇りに思うべきであると思う。

また、東北にはそうした歴史があり、精神があり、いまでも基層に流れていることをあらためて感じて欲しいと願う。

そして、こうしたことを日本刀を見る際には必ず思い起こして欲しいと願う。

今後東北の埋もれた歴史発掘継続

東北はこれまで、基本的に非戦を貫き、自ら他地方に攻め込むことをしなかったために、常に敗者の側に立たされた。そのためにその歴史は消され、最終的には埋もれてしまっている。今般の映像制作で、それらを再発掘する作業により大きな意義を見出した気がする。

東北には埋もれた歴史に関するテーマもまだまだ沢山あるはずだ。

それらを再発掘していこうと思う。

それを残された時間で追いかけて行こうと思う。

さらにいえば、東北はやはり千三百年前から再出発して、新たな歴史を創造すべきだと思った。



新型コロナ禍のなか、三度目でようやく上映実現